

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	よこはましりつよこはまさいえんす ふろんていあこうとうがっこう				②所在都道府県	神奈川県
26～30	① 学校名	横浜市立横浜サイエンス フロンティア高等学校					
③対象学科 名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1年 238人、2年 236人、3年 237人 計 711人	
理数科	40	40	40	0	120		
⑥研究開発 構想名	「内外の多様な教育資源を活用したグローバル・リーダー教育の研究開発」						
⑦研究開発 の概要	横浜の地域性を生かし、横浜に本部を置く国連機関 I T T O や国際ナショナルスクール、人文科学、社会科学分野に専門をもつ研究者等の支援・協力を得て、本校独自の「グローバル・スタディーズ」をコア教科とした S G コースを設置し、グローバル・リーダー教育の研究開発を行う。						
⑧研究開発 の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>国際都市「横浜」につながる、内外の様々な教育資源を活用し、世界規模の社会課題に取り組むことで、日本への深い理解と世界に向けた広い視野と高い見識、サイエンスの素養を基盤とした問題発見・解決能力、コミュニケーション力や国際交渉力を有したグローバル・リーダーの育成を図る。</p> <p>自国を愛し他国を尊重することができ、サイエンスの素養と人文・社会科学や芸術の教養、高度な国際コミュニケーション力を兼ね備えた、魅力ある人材育成を目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>全校生徒が「理数科」である本校にはサイエンス教育のフロンティア校としての成果やメリットがあることが検証されてきたが、その一方、多様な能力を持つ生徒の力を最大限に引き延ばすためには、人文・社会的なアプローチを導入する必要があることが分かってきた。S G H の導入により、日本への深い理解と世界に向けた広い視野と高い見識を養うことが求められているという現状から次の仮説を設定した。</p> <p>本校独自の学校設定教科「グローバル・スタディーズ」を必修教科として設置し、世界規模の様々な問題に関して課題探究型の学習を行い。土曜日には「サタデー・ヒューマン・スタディーズ」として多彩な講師による「驚きと感動」による教育を展開する。また、世界規模の課題に関して海外の連携校の生徒とともに考え、「海外研修」において英語による発表を行う。このことにより、日本への深い理解と世界に向けた広い視野と見識、問題発見・解決能力、コミュニケーション力を持った将来のグローバル・リーダーとなる資質を身に着けることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>(ア) S G H 研究成果発表会の実施 毎年3月（予定）に本校において「S G H 研究成果発表会（仮称）」を実施し、全国に向け本校の研究成果を発表する。</p> <p>(イ) 本校ホームページ上に「S G H のページ」を開設し、リアルタイムでS G H の実施状況を世界に向けて発信していく。</p> <p>(ウ) コミュニケーション力育成に T O E F L を活用する「トフル・アライアンス」（新潟県立国際情報高等学校、大阪府立住吉高等学校、同府立三国丘高等学校、同府立和泉高等学校）の各校と協力し、S G H の実施と T O E F L スコアの相関関係等に関する分析・検討を行い、結果を公開する。</p> <p>(エ) S G H 指定校での発表会等への参加 S G H 各校と連絡を取り、相互の交流と先端的な取り組みに関する情報の共有のため、積極的に他校を訪問し発表する、また年度末に本校において発表会を行う。</p>					

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>(ア) 「グローバル・スタディーズ」 アジアを中心とした地域の「環境保護」や「持続可能な開発」に関する課題(例：「生物の多様性をどのように守るか」、「ITTOの国際活動と木材産出国・消費国の連携」等)を社会学や経済学、教育学等の視点から研究し、グローバル・ソリューションを探究する。</p> <p>(イ) 「サタデー・ヒューマン・スタディーズ」 グローバルに活躍する人から「世界規模の課題」(例：「地球温暖化に対する具体策の研究」、「バイオフィューエルの可能性と食糧問題」等)に関する解決に向けた取り組みの実際や現状を学ぶことで、自己の使命を自覚し、課題研究への動機づけとする。</p> <p>(ウ) 国内外の研修における「ほんもの体験」を通じて、身近な課題に関する個人研究を推進し、グローバル・リーダーとしての資質を養う。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>(ア) 「グローバル・スタディーズⅠ」は1年次生全員を対象に2単位実施し、課題研究、世界規模の問題に関するワークショップを中心に学習し、英語で発表し評価を得る。</p> <p>(イ) 「グローバル・スタディーズⅡ」は2年次生「SGコース(40名)」の生徒が、アジアの環境問題等の課題研究に取り組む。英語での発表会を行い、評価を得る。</p> <p>(ウ) 「グローバル・スタディーズⅢ」はさらに高度な課題について研究、または海外大学への進学に対応できる力を育成する。TOEFLや大学進学状況などから評価する。</p> <p>(エ) 「サタデー・ヒューマン・スタディーズ」は世界の舞台で活躍する人材に直接指導していただくことで「驚きと感動」の体験をし、課題研究への取り組みを促進させる。</p> <p>(オ) 「国内外の研修」は日頃の研究活動により獲得した国際コミュニケーション力をさらに伸ばし、グローバル・リーダーとしての資質を養う。事前事後にTOEFL等を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「グローバル・スタディーズⅡ」は理数科2年次生の「課題研究」の代替とする。</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>(ア) 「日本史A」「世界史A」「古典」との連携 日本文化を理解し、日本人としてのアイデンティティの確立を目指す。</p> <p>(イ) インターナショナル・バカロレアプログラムに関する研究 世界基準の課題研究の指導法の指針として、さらに海外進学を目指す生徒の夢を実現させる方策として、バカロレアプログラムの活用に関して検討を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 記載事項なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>(ア) 海外研修プログラム(全員参加)</p> <p>(イ) Science Immersion Program (サイエンス・イマージョン・プログラム)</p> <p>(ウ) バンクーバー姉妹校国際交流プログラム(希望者)</p> <p>(エ) プリティッシュヒルズ研修 (希望者)</p> <p>(4) 幹事校としての取組(該当する場合のみ記入) 記載事項なし</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>	<p>本校はSSH指定校であるため、SGH課題研究を次のように実施するものとする。</p> <p>○2年次からSG(スーパー・グローバル)コース(1クラス)を設置し、人文・社会科学を中心とした「課題研究」(グローバル・スタディーズⅡ=GSⅡ)を推進する。また、本校2年次生全員には、効果測定としてTOEFL-ITPを実施する。</p> <p>※現在行っている自然科学5分野の「課題研究」(サイエンスリテラシーⅡ=SLⅡ)は、SS(スーパー・サイエンス)コース(5クラス)で展開する。</p> <p>○SGコースの生徒には「グローバル・スタディーズⅢ=GSⅢ」を設置して3年次にさらに高度な内容の研究が進められるように支援するとともに、海外の大学へ進学を希望する生徒に対する支援の在り方や校内指導体制の研究を進める。</p>

ふりがな	よこはましりつ よこはまさいえんすふるんていあこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		36人	36人	人	人	人	140人
目標設定の考え方: 国際交流ボランティア登録生徒数を5年間で約5倍にする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		1人	1人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 2年次生全員がマレーシア海外研修に行くが、それ以外にSGコースは50%目標とする。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		50%	%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: 100%の生徒が国際的に活躍する希望を持つことを目指す。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		12人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: SGコースの生徒は何らかの賞を受賞すべく努力をするように設定する。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		50%	50%	%	%	%	100%
目標設定の考え方: SGコースの生徒は全員B2レベル以上、その他の生徒はB1以上を目標とする。								
(その他本構想における取組の達成目標) 在学中に、国連機関、国際交流団体、外資系企業等でインターンの経験を持つ生徒の数								
f	SGH対象生徒:							10人
	SGH対象生徒以外:		1人	0人				5人
目標設定の考え方: SGコース生徒のうち10名程度は高いコミュニケーション力を身に付けて、国際的な環境で実習を経験させる。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	20%	30%	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: SGコースの生徒の国際化に重点を置いた大学への進学を促進させる。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	1人	2人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方:									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: 本校の特色から多くはないが、SGHコースの生徒には大いに影響が出るよう目標を設定する。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 専攻分野にかかわらず、すべての生徒が留学または海外研修に行くように目標を設定する。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	240人	240人	人	人	人	人	人	240人
目標設定の考え方: 本校では2年次生全員がマレーシア海外研修で課題研究を英語発表する。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	240人	240人	人	人	人	人	人	240人
目標設定の考え方: 本校では1年次生全員がイマージョンプログラムに参加する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	6校	7校	校	校	校	校	校	20校
目標設定の考え方: 現在、カナダの姉妹校をはじめ海外連携校との連携を促進しているが、5年で20校を目指す。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	200人	200人	人	人	人	人	人	300人
目標設定の考え方: 現在も多くの方々のご支援をいただいているが、今後もさらに外部参画を促進する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	60人	60人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 科学技術顧問の参画以外にも、国際機関等の参画を促進する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	4人	4人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 海外の大会の参加を促進する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	0人	人	人	人	人	人	6人
目標設定の考え方: 短期の交流、受け入れは行っているが、今後長期の留学生も受け入れを行うようにする。								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	2回
目標設定の考え方: 現在年に1回ysfFIRST国際科学フォーラムを開催しているが、SGH発表会も開催する。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方:								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j	1人	1人						5人
目標設定の考え方: SATを利用した、米国大学進学者への支援体制を整備し、受験者の増加を目指す。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	705	711	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							